

平成26年度 第3回美術館セミナー 報告

- 1 日 時 平成26年9月13日（土） 午前10時から午後2時まで
- 2 場 所 茨城県近代美術館 講座室
- 3 参加者 県内の小中学校の教員，学生
- 4 活動内容
10:00 受付（地階講座室）
10:00～10:10 オリエンテーション（日程について）
10:15～11:00 (1) 講話「『絵に表す』題材の選び方」
講師：班目和彦先生（元茨城県図工美術研究部長）



参加者から事前に「絵に表す」内容に関して困っていること，質問したいことなどをFAXで募り，そのことを踏まえて講師の先生にご講話いただいた。

小学校低学年では，普段の子どもの生活の中で題材を考えるようにしていくこと。中学年では，行事に関する絵画は“再現ではなく表現である”こと。高学年では，自分しかこういう見方をしていないというようなポイントを絞ること。中学校では，主題を明確にすることが大事であり，毎年同じ題材ではなく，常に新たな挑戦をするとよい，といった話をいただいた。

11:05～11:50 (2) グループ話し合い「日頃のお悩み相談」

小学校と中学校のグループに分かれて話し合った。一人の先生が，自分が考えた題材についてどう思うか他の先生に意見を聞いたり，それぞれの先生の授業法を聞いたりした。時間数が足りないこと，教科書に取り上げられている題材に「絵に表す」内容が少ないこと，基本的な技法に関してなど様々な意見が交わされた。

講師の班目和彦先生にもご指導いただいた。



11:50～12:00 (2) 諸連絡，アンケート記入

12:00～14:00 (3) 昼食・休憩，展覧会自由鑑賞

【参加者の質問内容】

- ・ 1年生を担当しているが，県展に出品する作品は，小さくいろいろ描いてあるようなものでもよいのでしょうか。（中心に大きく描いている作品が入選しているというイメージがあるので）
- ・ 4年生を担当しているが，写實的に描く力の差が出てきている。どのような題材がよいのか悩んでしまう。

- ・教科書の絵の題材は、人物を描くような写実的なものがなくなり、お話の絵のような空想的なものになってきている。しかし、お話の絵を描くと、高学年としては稚拙な絵になってしまう・・・。(5年生担任)
- ・背景は、どの程度絵の具で色をつけさせたらよいのでしょうか。児童が白いままでよいと考えていれば、そのままでもよいのでしょうか。(3年生担任)
- ・課題に対する意欲「描きたい」という気持ちを高めるような題材の工夫。
- ・身の回りの様々な事象に興味をもって美しさを感じ取ろうとする態度を育てる方法について。
- ・構図に関して
- ・絵の具の使い方 (パレットの色ののせ方, 混色, 着色の方法)
- ・鑑賞の仕方
- ・芸術祭は、子どもたちに作品づくりに取り組ませるよい機会ですが、指導者の方が意識しすぎてしまい、教育的観点からではなく見映えを優先して指導してしまいがちのように思われる。どのように考えて指導すればいいのかお伺いしたい。
- ・構図が思い浮かばない生徒に対して、どのように指導すればいいのか。
- ・気が散りやすい生徒に対しての対応の仕方。

など